

(議長)

それでは会議を再開いたします。

次に、まちづくり推進課所管の予算並びに関連議案について、一括補足説明を求めます。

まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

私の方から、令和3年度まちづくり推進課所管の予算について、ご説明を申し上げます。

別冊の各会計予算説明資料に基づき、新たな取り組み、あるいは既存事業中の変更点について、ご説明させていただきます。ページの8ページをお開き下さい。真ん中ほど、19番情報周知発信強化です。116万2千円でございます。こちらは、今のコロナの臨時交付金で、LINEを行っていましたが、新年度からは、公式のLINEアカウントを使いまして、新型コロナウイルスの情報は当然ですけれども、災害情報もしっかり出していこうという事で考えてございます。LINEのアカウント配信システム使用料92万2千円が含まれてございます。

続きまして、企画費中、まちづくり推進課所管の事業、こちら37番から49番、9ページの49番まででございます。

初めに、39番の北の江の島構想推進事業でございます。本年度は、北の江の島構想推進に向けた1年としまして、各関係機関や、住民などとの協議を図るため、昨年度整備した北の江の島構想VRを用いて、協議の場に挑んで参りたいと考えております。また、検討案について、さらに可視化を図るため、VR上の街区及び建物簡易ボリュームを作成し、課題とイメージを共有して参りたいと考えてございます。加えまして、まちづくりアドバイザーを活用して、北の江の島構想への協力をいただける企業を募る活動を実施して参ります。予算額は335万3千円でございます。

次にNo.49、江光ビル跡地活用基本計画策定でございます。跡地を中心市街地におけるコミュニティ拠点として整備するため、旧江光ビル跡地活用事業、基本構想に基づきまして、現在、作っている基本構想に基づきまして、基本計画を策定するものです。予算額は1,117万7千円、主には基本計画策定費用と地盤調査という事で考えてございます。

No.46番です。開陽丸青少年センター補助でございます。一般質問にもございましたが、開陽丸青少年センター運営費補助の他、劣化状況調査に対する費用相当額を、補助金として計上してございます。予算額は2,736万円となっております。

次に、47番の江差町上ノ国地域創生事業でございます。こちらの事業につきましては、令和2年度は、第2回の6月定例会で補正予算として、議決いただいたものでございます。上ノ国町と江差町で、2町の持つ強みを生かした特産品開発及び販路拡大、両町のPR活動に取り組むものでございます。予算額は150万となっております。これらは、全額、同協議会への負担金という事です。

続きまして、9ページに入ります。No.48番、サツドラホールディングス包括連携でございます。令和2年3月27日にサツドラホールディングス株式会社との共同事業に関する協定書を締結いたしました。同社から、自治体、民間企業の枠を超えた取り組みで新しい地方創生のモデル、江差モデルを作りましょうという提案のもと、今年度は健康づくりとICT人づくり事業として、スマホ教室等を実施してございます。

令和3年度、将来を見据えて、スマホの使用法を楽しみながら学ぶ、そういう機会を作っていきたいというふうに考えてございます。住民自身が、生活に活用できるよう、スマホ教室の充実を図って参ります。

続いて、予算書をご覧いただきたいと思います。48ページをご覧下さい。我が課では、3つの予算科目で事務に当たっております。48ページ、文書広報費でございます。本年度925万6千円の予算額で、比較で129万7千円の増、この増は、先程申し上げました、概ねLINEのアカウント使用料という事でご理解いただきたいと思います。

次に、52ページをお開き下さい。企画費です。2億1,062万円となっております。対前年度で、2,367万8千円の増です。主な増の要因としまして、旧江光ビル跡地、1,117万7千円、開陽丸青少年センター補助、劣化状況の500万、ふるさと応援寄付金積立で999万3千円となっております。

続きまして62ページ、統計調査費です。下段の方でございます、5番、統計調査費、本年度80万7千円、前年度に対比して434万9千円の減になってございます。こちらにつきましては、今年度、昨年10月ですか、国勢調査ございました。そのために当初で組んでおりました予算額が概ね、493万円でした。その減が主な理由となります。

以上、大変簡単ですけれども、当課所管の予算説明を終わらせていただきます。

(議長)

はい。説明が終わりましたので、一括質疑を許します。

質疑希望、ありませんか。

「小野寺議員」

はい。議長。

(議長)

はい。小野寺議員。

「小野寺議員」

1点だけ。1点に絞ってお聞きします。企画費という事になるのでしょうか。関連になります。

洋上風車について、お聞きしたいと思います。予算的にどこに、人件費等に入るん

でしょうか。今月号の町広報に、4ページにわたってかなり詳しく、詳しくと言いますか、この間の経過、今、全国的にもどういう位置付けなのかという事、わかりやすく紹介されていたなと思います。

それで、これを基にお聞きします。まず、私の質問の質疑のスタンスなんですが、時間がないという事です。それで、この町広報の2ページ目にも、既に先行しているところのスケジュールが書いてあります。私も、だいたい、こういう感じに長短、出てきたとしても、こんなもんだろうなというふうに、私も感じておりますが、今の北海道、この檜山の状況、考えた場合に、最短で、物事は最短で考えないと慌ててしまう。最短で考えます。最短で考えたら、今年の夏にももしかしたら有望な区域として、この檜山沖どうなるか。乙部の関係ありますのでね、どうなるか。松前との関係でどうなるかというのがありますが、いずれにしても、有望な区域として、公表されるかも知れない。そうすると早ければ、早ければ半年で促進区域に指定という事も在り得るかも知れない。最短ですよ。

それで、この町広報に何度も書いてありますが、町の方針、決めると、町の方針を決める。という事なんですが、あんまりお遅くなったら遅いんですよ。促進区域が指定されてしまったら、もうアウトですね。ですから町の方針、マルかバツかサンカクか。いずれにしても、時間がないんです。

それで、ここに町の方針を決める際に4つの視点という事を、町民の皆さんにわかりやすく書いております。この4つの視点で、町は判断すると。マルかバツかサンカクか、わかりませんが。

そこで、この4つの視点に関してお聞きします。

この4つの視点を私なりに少しまとめました。

まず、1つ目の住民が安心して暮らせる事をまずしっかり考えようという事と、動植物を初めとした、自然への影響、これ3番目に、4つのうちの3番目にあるんですが、私、この1と3をひとくくりにお聞きしますけれども、住民が安心、電磁波だとか電波だとか、そういう音の問題だとか、動植物、海の関係ですね。これはどう考えても専門的な機関というか、関係者、学者というか、そこから情報収集しないともうね、検討出来ないですよ。情報収集は大事だって、町広報に書いてありますけれども、これどうするのか。しかもね、1回で終わるなんてあり得ない。継続的にこれをやらなければならない。私一般質問でこれ言いました。どう考えているのか。町広報に書いてあるけれども、これどうするのか、これが1つ。

それから2つ目。4つの判断視点の②に、漁業者を初めとした海で活動している皆さんの意向となっています。これもすごく大事ですが、先程、3で言っている、動植物、つまり海ですね、海の生態系の影響という事と、関連してくるんですが、漁業者との関係と言ったって、今一良くわからない。何かあたかも今、漁業者は推進、推進というふうに見える側面もある。感じれる側面もある。そういう漁業者だけの意向という事になるとね、ちょっと間違った方向にいくかも知れない。それで、漁業のことを考えた場合に、もっと突っ込んで言うと、江差の浜というか、檜山の海というか、

漁業をどうするのか。これから50年100年、ずっと未来永劫続くであろう、この沖、浜の漁業をどうするかという事をね、江差町としてもね、しっかりおさえて上で、さてさて漁業の皆さんどうしましょうかと。そういう事を考えた場合に、まずは漁業振興進めましょうね、浜を守りましょうね、そういう立場が私は絶対必要だと思うんですよ。どうも、今ちょっと違うというふうに、私の考えとしては、受け止めてる面もあります。ちょっと違うんじゃないかなと。その点、江差町の考え方、この2つ目の視点という事でどう考えているのか、お聞きしたい。

最後です。4つの視点の、④、最後に、景観を損なう海上への配慮。わかりやすく言うと、どでかいタワーが建って、かもめ島から見たら大変だねと。そういう事についてどうしましょう、しっかりとした考え方という事なんですけど、これはまさしく、町民と、もしくは町内のいろんな関係団体と意見を交わすという事になります。これは当然江差町としても考えていると思うんです。かもめ島から望んだら、大変に変わってしまうかもしれない風景、一大事業がおこなわれるかもしれない。そういう意味では、事業を進める上で賛成だ、反対だ、いろんな意見があると思うんですが、本当に、多角的にこの件に関して言うと検討しなければならないと思うんです。その点について、私以上、町が考えている4つの視点に関して、私なりの考え方も含めて、質問をさせていただきます。

(議長)

まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

3つのご質問だったと思います。

まず、住民が安心して暮らせるような、環境を担保するための調査だとかをきちんとしなさいという事だと思いますけれども、私達にしてみると、江差町単独で、今、物事を考えるよりは、当然その洋上風力は檜山管内7町で、今7町、6町で、今想定してございます。

そういう中で、協議会の中でですね、いろんな情報共有しながら、課題を1つ1つ潰していく必要があるのかなと私は思っています。これには、北海道も当然、一緒に入っていただく事になるのかなと思っています。

例えば、江差町、個別の確かに課題もございます。ただし、そうではなくて、全体に洋上風力全体の課題、例えば、先程の音ですとか、景観、この辺はしっかり、全ての町と一緒にしながら、どんな課題があるのか。住民の皆さんが、どういう心配があるのか、あるいはご意見があるのかは、4月にですね、意見交換会を開催しながら、その協議会であったり、あるいは北海道とのテーブルにもっていきたいというふうに考えてございます。

2番目にありました漁業者の関係です。浜をどうするのかという事でございますけれども、風車なのか、あるいは漁業振興なのかという二者択一ではないと思います。風

車が建ったから、漁業が衰退するというふうに私達は考えてございませんので、その点はお伝えしておきたいなというふうに考えてます。

以上です。

「小野寺議員」

3つ目は。

「まちづくり推進課長」

3つ目は、1つ目の中で、お話の中で、包括させていただきたいというふうに考えていました。

「小野寺議員」

議長。

(議長)

小野寺議員。

「小野寺議員」

課長。今の答弁良くわからないんですが、私前段に言ったと思うんですけども、時間がないんですよ。これね、促進区域指定に際して、江差町として、しっかり判断するという事ですよ。それね、促進区域指定された後にも、時間かけて、じっくり、さっき言った事をやるという事なんじゃないかな。私の読み違いでしょうか。促進区域を指定される時に江差町としても意見を言える機会が設けられていますと。それに際して、江差町としても、しっかりとした意見を言っていくと。つまり、さっきの4つの観点というのは、その時にしっかりとした観点でね、述べなきゃならない。でしょう、これ読めば。つまり、北海道がどうかですね、そんな事を言ってたら半年も1年も、もっとかかるかな。だいたい、そういう土台なんて作られていないでしょう。だいたい何もやっていないでしょう。檜山管内全体だって、実質的にはやる、やろうやろうやろう、やれやれやれですよ。しっかりと客観的に問題点を、今いろんな知見、いろんな知見ありますよ。本州で数多、情報は溢れていますね。賛成反対も含めて。だからどうするんですか、万が一さっき言った、最短でそういうふうに、どんどんどんどん進んでいった場合、江差町の意見を申す機会なんて全然ないでしょう。江差の知見が全然蓄積されないでしょう、今の答弁だったら。違うんですかね。ちょっと教えて下さい。

(議長)

町長。

「町長」

小野寺議員から洋上風力の件に関してご質問頂いております。

何款の何項の何目目の項目か、私には理解できないんですけども、こういう議論は、ぜひ一般質問でやっていただきたいなというふうに思います。

前提として、その広報にも書いておりますけども、江差町の立場は推進の立場という事を明記しております。その上で、江差町として、洋上風力を建てるに当たってどうあるべきかという事を4つの視点で検討していくというような事でございます。

当然、その中には時間的な制約というものがあるにせよ、100%誰にとってもいいもの、そんなものは、きっとこの世の中にエネルギーを作っていくためにはないんだろうなと思います。原発に対しても賛成反対があり、火力発電に対してもCO₂、温室効果ガスに負荷をかける、環境に負荷をかける発電であるという事、いろんな問題が賛成反対、いい面悪い面があって、その両面を見ながら、比較考量の中でどういう選択をしていくのかというのが、求められるのではないのかなというふうに思っています。

我々の地域にとって、100%洋上風力がいいという事でもなく、ですけども、この地域として、どうやって受け入れられるような形にもっていく、いけるのかという事を一生懸命我々も勉強しますし、住民に皆さんにも理解をしていただきながら、この地域の在り方を考えていきたいと。その1つの題材として4つの視点をお示しさせていただいております。その上で、4月もいろんな情報を踏まえながら、今持てる我々の情報を住民の皆さんにお知らせし、そして、住民の皆さんのご意見をいただきながらプロセスを踏んでいくという事ですけども、どっかの段階では、こういう形で、江差町としては洋上風力に向き合っていくというところは結論付けなければいけないというふうには思っております。

小野寺議員が、懸念されているように、時間的な制約というのは、非常にあるんだろうなと思いますけれども、しっかりですね、この問題に、町として、そして町民の皆さんとともに、向き合っていきたいなと思いますのでご理解願いたいと思います。

(議長)

はい。小野寺議員。

「小野寺議員」

実は私、一般質問で準備してたんです。ところが町広報が来たのが1日、2日だったかな。もう一般質問に間に合わなかったんですよ、残念ながら。それで一般質問やめて今回これ出すようにしました。また、違った機会で行おうと思いますが。いずれにしたって刻々と時間経ちますよね。

それで、町長、課長でも町長でもいいんですが。今の話ですと、とても、この4つの視点を掘り下げて、しっかりとした判断材料にするとは到底思えない。①住民が安心して暮らせる事にこういう事書いてあります。音を始め、つまり騒音とか、超低周

波も入るんでしょかね。健康に害を与える可能性がない事が何よりも大切な判断材料ですって。これね、しっかりとした知見って良く今使いますけど、いろんな学者、いろんな機関からね、情報入手しないと、この判断なんてとてもとても簡単になんて出来ないですよ。これを時間かけてって、もし時間かけてったらさっき言ったとおり、どんどんどんどん進められますから。かなり進んでから止めようと思ったって実際上止めれないですよ。入り口でしっかりとした判断、それこそマルなのかバツなのかサンカクなのかというのは、この促進区域指定する段階で、ほぼ求められるんです。市町村には。なので、私はこの4つの視点はすごくいいなあと思ったんだけど、今の町長、課長の話ですと、ちょっと腰砕けになっちゃうのかなという気がしました。

最後。3問だから。それにしても、確かにこれは無いものねだりというか、町長を攻めているのではなくて、国の制度そのものが非常にね、せっついてるからこうなるので、これは国に言わなければならない事なんですけれども、そのためにも、やっぱりね、しっかりとした体制を江差町で作るべきだと思うんです。こういう4つの観点をね、可能な限り検討するんだとしたら、役場の中にそういう検討する職員もきちっと専門の職員を付けたとか、一定の検討の組織を作るとか、国の期間からいろんな情報取るとすれば、本当に時間がかかりますよ。そういう体制作りといのはどう考えているんでしょうか。私はそこがすごく大事だと思うんですがいかがですか。

(議長)

はい。町長。

「町長」

今、小野寺議員から体制についてのご質問をいただきましたけれども、我々限られた財源の中で人員配置をしております。町の予算を使って、町のまちづくりの振興、あるいはまちづくり全体について考えている中で、この洋上風力というのはまちづくり推進課が所管しているという状況にあります。先程来、腰砕けというようなお話もありましたけれども、我々はそんな事をまったく考えてなくて、この地域にとって、洋上風力とどうやって真剣に向き合っていくべきかという事を常に考えて職員と議論をしながら今回も広報を作り上げているという事です。そういう表現をされると、非常にこう、甚だ残念な限りなんですけれども、ぜひ国に言うべき事は国に言うただいて、我々は町議会、我々は江差町でございますから、市町村の置かれる立場にたって、我々がどう判断すべきか、そこに立って、ぜひご議論いただきたいと思えます。その上で人員配置という事なんですけれども、予算がふんだんにあればいろんなところに人員を配置して、議論を進めていけるのかと思えますけれども、限られた人員の中で、できる最大限の努力をさせていただきたいと思えますので、ご理解いただきたいと思えます。

(議長)

いいですか。

はい。他に、質疑希望ありませんか。

薄木議員。

「薄木議員」

尾山課長。長年にわたり山の上商店街から、何とか観光案内版を作って頂きたいという願いはしていたんですけれども、実際、今の所、江差町には観光案内版はないんですよね。やはり、こういう事を江差町の観光資源から考えていっても、ちょっと江差町から、今それぞれのいろんな団体には、もう財源的には余裕がないもんだから、町で何とか看板を立ててくれないかという願いはしているんですけれども、出来ない理由とか何かありましたらお願いいたします。

(議長)

はい。まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

薄木議員から、平場でも、この件、中央商店街のポケットパークの場所に、以前看板ございまして、腐食などによりそれを撤去したというのは、去年一昨年冬だったかなと思います。

それ以来、何度かご要望いただいて、当時、私違う担当だったんですけれども、まちづくりの担当課長ともお話ししました。

その際、商工会の方ともお話ししたんですけれども、観光看板という意識がなかったのかなというふうに思っています。もう一度、例えば、商盛会の皆さん、あるいは法華寺通りの皆さん、あるいは商工会含めてですね、意見交換しながら、あそこにどんな看板が、地域の皆さんが望んでいるのかという事を、確認しながら検討して参りたいと思いますので、ご理解頂きたいと思います。

(議長)

いいですか。はい、薄木議員。

「薄木議員」

それは、年内にやるという事でいいんですか。

(議長)

はい。課長。

「まちづくり推進課長」

まずは、しっかり地域の要望を確認させていただきたいと、そこで、ご理解いただ

きたいと思います。

(議長)

はい。いいですね。

はい、他に、質疑希望ありませんか。

(議長)

はい。薄木議員。

「薄木議員」

今の、課長の答弁で、解釈をして構いませんか。

やるという事の確認ですよ。いいんですか。あれで。

(議長)

まちづくり課長答えるのかい。

「薄木議員」

話し合いをするという事なんだべ。

(議長)

はい。まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

議員、大変、申し訳ございませんが、やるというような答弁にはなかなかならない。しっかり、まず確認しながら、財政当局などもしっかり議論していきたいというふうに考えていますので、ぜひご理解いただきたいと思います。

(議長)

はい。質疑希望、他に、質疑規模ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

はい、室井議員。

「室井議員」

簡潔にいきますよ。2月19日の全員協議会ですね。それもありますども、まず先に中心市街地ですね、江光ビル後の。これは全員協議会で私ちょっと老婆心ながら、

アドバイスしますという事で申し上げたんですが、ボーリング調査やるんでしょう。地盤調査。だからこれ、建物がね、ある程度、相対建物重量決まらないと、ボーリング調査の支持層まで、あれだよ、何メートル掘ったらいいのか。これプロに聞いたらわかるんだよ。どのぐらいの建物建てたいんだと言うと、支持層をどこに求めるか。杭のね、そういうのをちゃんと想定してやらないと、ボーリング調査費がばりかかるよ、お金。無駄なお金が。100メートルの支持層打つのか。20メートルぐらいで止めるのか。10メートルぐらいに止めるのか。建物の内容によって変わるんだよ。だからこれはね、ちゃんと検討しないと、財政課長いいですか。ね、さあ、何でもいから、硬い所まで掘って下さいと言わないように、ちゃんと対応してもらいたい。いいですか。余計なお金掛けたくないと思いで俺言ってるんだよ、今。

それともう1点。あと、内容はね、どういうものやるか、町長も答弁したとおり、これからいろいろと検討してくると思うけども、これやっぱりね、300何十坪かい、あそこ、土地。あそこだけね、考えないでさあ、いずれだよ、あの中で何やるにしても、車を入れたら基本的にはまずい、いろんな施設。何か、その瞬間的にイベントやる時だけ入れてもいいよ、応急的に。状態化する駐車場はあそこに作るべきではないと私思います。それで提案なんです。長年懸案になっているですね、向かいの老朽施設ありますね。私所有者も知ってます。それと建物の権利者も知っています。でも、これも多少困難があるけど、頑張ればね、いい方向にくると思いますよ。そりゃ、町がね、ある程度の財政支出は考えないとならないけど、長期的にそういう事も含めていかないと、中心市街地の商店街のど真ん中に、まずい。なぜかと言うと、私も今努力しているんだよ。長年の課題。私個人で今努力しています。何とかね、そういう老朽施設を何とか処分したいと。処理してね、やっぱり、いい町、きれいな町にしたいな、美しいとまで言わなくても、そういう町、努力しています。挑戦しています。だからそういう物も含めてですね、副町長、何もね、今すぐ今年やれとか、直ぐやって欲しいとでないんだよ。そういう事も頭に入れて、入れてですよ。入れて、あの施設の中には極めて、駐車場、パーキングを設けるといような事を止めた方がいい。危ない。何に利用するにも。乗り入れは別だよ。出し入れは。と私は考えます。そのために、代替えのね、そういう駐車場、利用する場所も一緒に課題として検討してもらいたいとこういう事ですがどうですか。

(議長)

はい。副町長。

「副町長」

まず1点目。おっしゃるとおりです。私も同じ考えです。いわば、基礎がどのように埋められたかということ、私も当時わかってございますんで、建物の大きさだけでなく、先程言った重量、そういった事も含めて、決まってからボーリングという話ではないので、そこは慎重に、ちゃんと対応させていただきたい。そのつもりだと思

います。そういうふうにしないと、ちょっとまずい事になってしまう。

それから、2つ目の点については、室井議員、申し訳ございません。場所は、道路を挟んで向かい側の場所ですよね。ホテルニューえさしさんの駐車場のところを指していますか。この場での答弁については、一応ご提言というか、ご意見として頂戴させていただきます。駐車場の事の心配をしているという事なので、私もこれ以上、今踏み込んで、その辺はご意見として賜ります。

(議長)

はい。いいですね。

はい。他に質疑希望ありませんので、まちづくり推進課所管予算並びに関連議案についての質疑を終了いたします。

説明員入れ替えのため、暫時休憩、いたします。

休憩 16 : 28

再開 16 : 29